

商店街名：刈谷市刈谷駅前商店街振興組合（刈谷市）

キャッチコピー

未来を育む商店街 ～つながりを力に～

◎商店街の将来ビジョン（目指す未来の商店街の姿）

◇地域の状況（2030年度頃）

- 全国平均より比較的若い人の割合が多い都市であるが、高齢者も25%弱になると予想される。
- 刈谷にも大型商業施設ができるため、人の流れ等に注視が必要。
- 刈谷駅周辺はマンションなどが多く建設され、入居が進み中心市街地の人口は増えると思われる。



◇商店街の姿

- 刈谷駅周辺は中心市街地にあり飲食店が多いエリアで、南北ともに高層マンションが建ち、住宅街が並ぶ。飲食店を中心とした刈谷駅前商店街は幅広い世代が利用している。
- 刈谷駅前商店街の特徴を生かし、リアンナイトといった飲食イベントなど幅広いニーズに沿ったものを継承しつつ、「スペースAQUA」での賑わい創出・地域交流の場を展開し、地域の意見を取り入れながら新しい取り組みを行う。

◇地域の状況（2035年度頃以降）

- 人口が減少傾向になるとともに、高齢者の割合が25%を超え、高齢者の単身世帯の増加が予想される。
- 刈谷駅周辺の利便性の高い都市機能は維持されながら、高齢者等の生活拠点としての機能の充実が求められる。



◇商店街の姿

- 従来の飲食イベントだけでなく、コミュニティの一部を担い高齢者でも出かけやすい持続可能な商店街
- 高齢者だけでなく、子育て世帯や働く世代も利用しやすい「多世代交流型」の商店街
- 商店街の魅力をアピールし、新規店舗参入者を増やすことで、組合加入店舗の増加を図る。

◎未来の商店街の姿に至る方法（プロセス） 【構想計画期間：2026年度～2030年度】

① 地域住民との対話による商店街づくりの推進

商店街のSNS等による情報発信だけでなく、夏祭り等のイベントや自治会等との連携を通じて、地域住民を対象としたアンケートや意見収集を定期的に行う。収集した意見を分析・検証し、イベントや事業の方向性、新規事業の立案、既存事業の見直し・廃止について毎年度検討を行うなど、地域ニーズを反映したPDCAサイクルを構築する。

② スペースAQUAを核とした地域交流拠点の形成

地域住民が気軽に集い、交流できる拠点としてスペースAQUAを活用するとともに、商店街活動への参加や関わりを生み出す場として運営する。多様な世代・地域団体・事業者がつながることで、地域コミュニティの活性化と新たな担い手の育成を図り、「未来を育む商店街」としてのブランド形成を進める。

◎実行体制

(1) 未来プロジェクトチーム

構成：地域の多様な主体の関係者を含む計6名

(2) 地域プラットフォーム

名称：未来を育む商店街プロジェクト

目的：若手や新規店舗の参入などにより活気ある商店街振興組合を作るべく、時代のニーズにあった意見を積極的に取り入れ、若手が中心となって企画運営を行える環境を作りながら、地域連携を図っていく。

参画：商店主、地域住民、その他

◎想定・把握している「商店街に対する地域ニーズ」

- 自治会からは、地域で実施していた盆踊りを商店街が引継ぎ、自治会と連携しながら地域の子どもが参加できる行事の継続を希望されている
- 新しい賑わい拠点「スペースAQUA」から地域と密着したイベントの実施
- カリアンナイトアンケートからは、参加店舗、お昼に利用できる店舗拡充、路上ライブなどのイベント拡充など、引きつづきニーズが高いことがわかった。

◎将来ビジョンの具現化や地域ニーズの対応のために行う地域貢献活動の内容

商店街として、刈谷駅周辺エリアプラットフォーム（※）に参画しており、地域課題に対し商店街としてどのように関わることができるか、反対に商店街にどんなニーズがあるか等を知ることができ、検討が進められている。地域ニーズや商店街に求められる役割を踏まえながら、地域と連携したイベント等の実施、スペースAQUAを核とした地域交流拠点の形成を進める。

（※）官民で連携し、エリアビジョンの策定及び継続的なまちづくりに取り組むことで、刈谷駅周辺の回遊性向上やエリア価値の向上を図るため、令和7年12月設立。構成員は刈谷駅前商店街振興組合、刈谷市商店街連盟、刈谷商工会議所、自治会、愛知教育大学、地元企業等